



# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM 2000 1月号

あけまして  
おめでとうございます。

龍神図絵馬 (大磯町西小磯宇賀神社所蔵)



## 2000年を迎えて

館長 田代義則

いよいよ2000年という節目の年を迎えました。

博物館には、いろいろな役目がありますが、その中心はさまざまな分野の資料を次の世代に伝えていくということです。いわば、過去と現在、そして未来を橋渡しするのが博物館だということができるでしょう。そうした役目を考えると、節目にあたる今年、博物館として何を新しい千年紀に引き継いでいくことが求められるのか、真剣に考えるべき時だとも感じております。市民の皆さんのお力とお知恵を借りながら、そのことを念頭において活動を積み重ねていきたいと考えております。

この2月には、新しい試みとして、「博物館まつり」を開催いたします。館を舞台に活動されているグループや団体の方々に、日頃の成果を発表して頂く趣旨の催しです。ぜひ多くの方々にご来場頂きたいと思っております。

また、夏には、平塚ゆかりの文人で、「食道楽」などの著作で知られるとともに、19世紀末に未来の予言を残した村井弦斎の特別展を予定しております。人物像を描くことを通して、地域の再発見をすることをねらいとした、「木谷實展」に続く企画にご期待ください。

これ以外にも、3月には天文、10月には地質の特別展が計画されております。普及行事についても、今まで以上の充実を目指していく所存です。このように、今年も市民の方々の博物館に対する種々の願いに応えられるよう、職員一同が懸命の努力をしてみたいと思いますので、ご支援とご協力をひとえにお願い申し上げます。

## ミレニアム (MILLENNIUM)

ミレニアム(千年祭)はキリストの生誕から千年ごとを祝います。欧米ではキリストの再臨を意味する「至福千年」という考え方のもと、人々が心待ちにする節目として重要にされています。西暦2000年をむかえて、プラネタリウムでも千年という単位で人類の宇宙に対する理解、知識の変化を見てみることにします。



天文学をリードしてきた学者たち(左からプトレマイオス、コペルニクス、アインシュタイン)

## 天動説から地動説へ

紀元前の時代、人間が考えていた宇宙は、宇宙の中心に位置する地上と、神の世界である天上界とは異なる世界で、人間は地上から天上に輝く星を見上げているのだと考えられていました。こうした星々、惑星、太陽などの天体の運動は、紀元前2世紀頃にギリシャのヒッパルコスによって詳しく観測されていました。

紀元2世紀に書かれたギリシャ天文学の集大成、プトレマイオスの『アルmageスト』は、地球を宇宙の中心においた天動説で、キリスト教の教義にもなじみ、西欧の宇宙観の基になりました。

ニコラス・コペルニクス(1473～1543)はポーランドの学者で、天文学・数学を学び、『天体の回転について』という書物を著し、太陽を中心に置き、地球や他の惑星がその周囲を回転するというモデルを発表しました。以降さまざまな論争と証明を繰り返しながら、地動説が受け入れられてきました。

コペルニクスの転回、という言葉で表現される、世界の中心が大きく変わった出来事でもあります。

## 望遠鏡が広げた宇宙

望遠鏡を初めて天体に向けたのは、イタリアのガリレオ・ガリレイです。望遠鏡が発明されると彼はその道具を自分で作り上げました。ガリレオは木星の衛星や、天の川は星の集まりだということや、月の山などを発見し小さな本にまとめています。

その後、望遠鏡は宇宙を見る目として発達し、大型化して行きました。時代の最先端の科学として、天文学とその道具の望遠鏡は進歩してきたのです。

今では望遠鏡は宇宙のはてをとらえるまでになり、それは宇宙の始まりを調べることに繋がってきています。

## 二千年紀の地球

千年紀の終わりに急速に進歩した科学は、人類の夢をかなえてきました。一方で地球の未来に影響するような問題も起こしてきました。人類はこれ以上、夢をかなえるために、地球の環境をみだすことは出来ないところまで来ています。これからの千年紀、人類が夢の実現のために踏み出すのは広大な宇宙です。

## 宇宙へ向かう

宇宙は人類が挑戦するフロンティアとして広がっています。そこは地球とは全く異なる危険に満ちた環境です。人類はまず、地球の周囲に、次に月、火星、太陽系と活動の場を広げて、千年後には…。



21世紀初めに作られる国際宇宙ステーション

# 寄贈品コーナー「高林寺遺跡展」

期間：平成12年1月5日(水)～2月13日(日)

この遺跡は平塚市遺跡台帳の上で、192として登録されており、その遺跡面積は86,000㎡の規模を有しています。現在まで13地点の調査が行われており、12地点まで報告がされています。この遺跡の全体的な性格は、相模国府の主要な官衙域として位置づけされるものです。掘立柱建物址や竪穴住居址が多数検出され、遺物としても身分を象徴する石製や銅製の帯飾り金具、「曹司」「政所」等の役所の施設を標記した墨書土器が出土しています。

今回の展示では、第7・9・12地点の調査成果をもとに、この地域の大きな歴史を考えてみたいと思います。その視点となるのが、第7・9地点の報告で指摘されてきた区画溝の問題です。この区画された溝状遺構は伯耆国の「国庁」(政庁とも言う)規模に匹敵するものとして、国衙施設でも最も重要な「儀式の場」として位置づけされてきましたが、12地点の調査と報告では中世の区画溝と変更されました。このために、相模国府(大住国府)そのものの国衙構造(役所の諸施設)がどのような配置構造であったか分からなくなりました。従って、国庁の確認が重要な課題となっているのが現状です。

区画溝が中世のものとするれば、どのような性格のものであったかが問題点となります。何れにしても、遺跡の様相は、古代と中世ではこの地域の景観が大きく変わったことを示しています。その背景には何があったのでしょうか。この鍵が分かれば、国府が大磯町に移転した謎が解けそうです。



論議を呼ぶ区画溝

## 第1回博物館まつり

はじめての「博物館まつり」が開かれます。

日頃、博物館を舞台に活動しているグループが一同に会して、活動のようすを紹介する展示をします。どんな会があるのか、どんな活動をしているのか、そんなことを知る絶好の機会です。ふるってご来場ください。3月には来年度の会員募集がありますので、その参考にもなると思います。

展示：平成12年2月8日(火)～13日(日) 会場：特別展示室

発表会：2月12日(土) 午後1時半～4時半(入場自由) 講堂

参加予定グループ(順不同)

古代遺跡を探す会

民俗探訪会

石仏を調べる会

相模川の生い立ちを探る会

地質調査会

天体観察会

古文書講読会/地域史研究会

裏打ちの会

平塚の戦災と空襲を記録する会

展示解説ボランティアの会

漂着物を拾う会

神奈川キノコの会

( : 展示参加 : 展示解説等協力)

# 博物館カレンダー

## 2000年1月

## 2000年2月

|    |   |                                  |      |
|----|---|----------------------------------|------|
| 5  | 水 | ☆ 寄贈品コーナー「高林寺遺跡展」<br>(~2月13日)    | 展示室  |
| 7  | 金 | 古文書講読会                           | 講堂   |
|    |   | ◎ 星を見る会「木星と土星」                   | 屋上   |
|    |   | 天体観察会「スターウォッチング調査」               | 屋上   |
| 8  | 土 | ◎ 漂着物を拾う会                        | 虹ヶ浜  |
|    |   | 地質調査会                            | 野外   |
| 9  | 日 | 民俗探訪会                            | 野外   |
| 12 | 水 | 地質調査会                            | 特研究室 |
| 13 | 木 | 石仏を調べる会                          | 特研究室 |
| 14 | 金 | 古文書講読会                           | 講堂   |
| 15 | 土 | ☆ プラネタリウム「二千年紀・人類の夢」<br>(~2月27日) | プラネ室 |
| 16 | 日 | ◎ ろばたばなしの会                       | 展示室  |
|    |   | ○ 自然観察会「丹沢湖の水鳥」                  | 丹沢湖  |
|    |   | 地質調査会                            | 特研究室 |
| 19 | 水 | 裏打ちの会                            | 科学室  |
| 21 | 金 | 古文書講読会                           | 講堂   |
| 23 | 日 | 古代遺跡を探す会                         | 野外   |
| 27 | 木 | 石仏を調べる会                          | 特研究室 |
| 28 | 金 | 古文書講読会                           | 講堂   |
| 30 | 日 | 相模川の生い立ちを探る会                     | 小 仏  |

|    |   |                               |      |
|----|---|-------------------------------|------|
| 1  | 火 | ☆ 寄贈品コーナー「高林寺遺跡展」<br>(~2月13日) | 展示室  |
| 4  | 金 | 古文書講読会                        | 講堂   |
|    |   | ◎ 星を見る会「冬の星座」                 | 屋上   |
| 6  | 日 | 民俗探訪会                         | 野外   |
| 8  | 火 | ☆ 特別展「博物館まつり」<br>(~2月13日)     | 特展室  |
| 10 | 木 | 石仏を調べる会                       | 特研究室 |
| 12 | 土 | 天体観察会「カノーブス」                  | 屋上   |
|    |   | ◎ 博物館まつり発表会                   | 講堂   |
| 13 | 日 | 地質調査会                         | 野外   |
| 16 | 水 | 裏打ちの会                         | 科学室  |
|    |   | 地質調査会                         | 特研究室 |
| 18 | 金 | ☆ 寄贈品コーナー「生物」<br>(~3月30日)     | 展示室  |
|    |   | 古文書講読会                        | 講堂   |
|    | 日 | 相模川の生い立ちを探る会                  | 湿地研  |
| 20 | 日 | ○ 体験学習「竹籠を作ろう」                | 科学室  |
|    |   | ◎ ろばたばなしの会                    | 展示室  |
| 24 | 木 | 石仏を調べる会                       | 特研究室 |
| 25 | 金 | 古文書講読会                        | 講堂   |
| 26 | 土 | 空襲と戦災を記録する会                   | 特研究室 |
| 27 | 日 | 古代遺跡を探す会                      | 野外   |
|    |   | 地質調査会                         | 科学室  |

### ○漂着物を拾う会

日時：1月8日(土) 9時半～11時

場所：虹ヶ浜海岸

申込：自由参加ですが、初めて参加される方は往復ハガキで申し込んでください。集合場所の案内をお送りします。

### ○自然観察会 「丹沢湖の水鳥」

日時：1月16日(日) 午前8時～午後4時

場所：丹沢湖

申込：1月7日までに往復ハガキで。30名。

### ☆寄贈品コーナー

#### 「高林寺遺跡展」

相模国府の役所の諸施設が存在したと推定される市内四之宮の高林寺遺跡の出土品を紹介します。  
会期：1月5日(水)～2月13日(日)

### ☆プラネタリウム

#### 「惑星の動き」

期間：11月20日(土)～1月9日(日)

#### 「二千年紀・人類の夢」

期間：1月15日(土)～2月27日(日)

※土日の 11時と14時 ※観覧料：100円

### ◎星を見る会

#### 「土星の輪と木星の衛星」

日時：1月7日(金) 19時～20時30分

#### 「冬の星座」

日時：2月4日(金) 19時～20時30分

場所：博物館屋上(集合は科学教室) 参加自由

### ◎ろばたばなし

相模地方の伝説と昔話を語ります。

日時：1月16日(日) 午後1時半と3時

場所：1階展示室民家内 参加：自由

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 他は年間会員制

あなたと博物館 24巻10号通巻276号 発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel.0463-33-5111 Fax.31-3949